

中禅寺湖の適正利用に関するコメント —大衆観光から成熟社会の観光へ—

- 1, 日光市における資源の適正利用の事例
- 2, 観光資源の適正利用
- 3, 観光サービスの変遷

今まで
これから

- 4, 成熟社会の観光地マネジメント
- 5, 奥日光の交通サービスから見た中禅寺湖の活用

1, 日光市における資源の適正利用の事例

- 事例1 鬼怒川温泉のふれあい橋
- 事例2 市道1002号線の交通規制とシャトルバス導入
- 事例3 日光門前町の再生
- 事例4 中宮祠地区活性化事業

事例1 鬼怒川温泉のふれあい橋

政策: 鬼怒川温泉のふれあい橋

資源: 鬼怒川の渓谷

効果: 渓谷にアクセスする公共空間の提供

課題: 回遊ルートの形成(地域の足並み)



事例2 市道1002号線の交通規制とシャトルバス導入

政策: 日光市道1002号線への交通規制と低公害バスの導入

資源: 戦場ヶ原、小田代ヶ原の自然

効果: 資源の質にあった野外レク活動の誘導(ドライブから自然探索へ)
・宿泊の増加
・公共交通でのアクセス

課題: 活動間のコンフリクト(沿線へのレク施設)

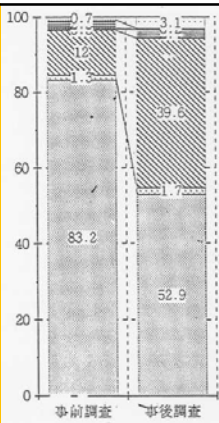


図-4 奥日光への交通手段の変化

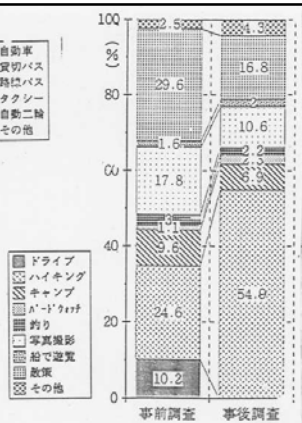


図-6 地区内活動の変化

事例3 日光門前町の再生

観光地構造の変遷

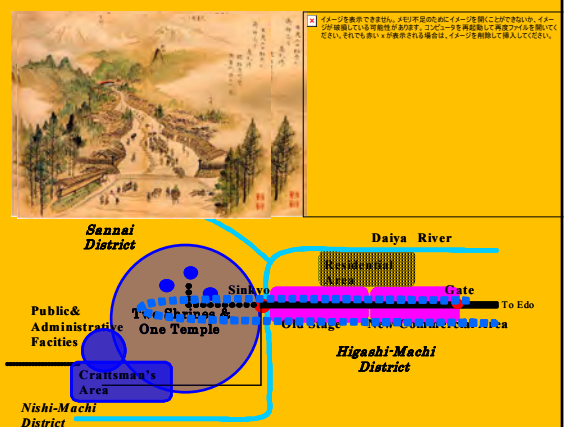
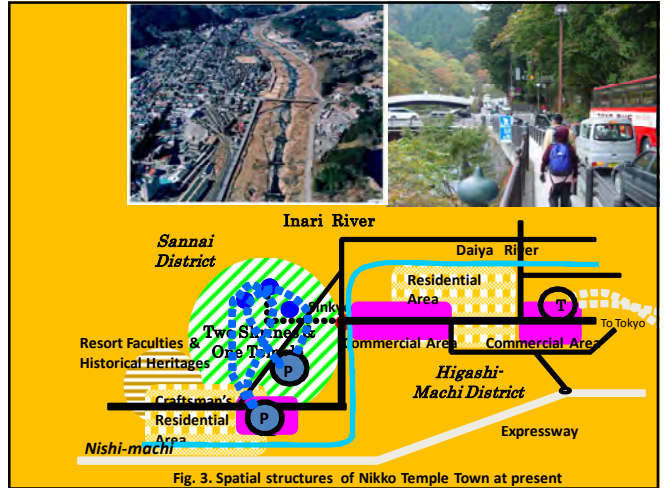
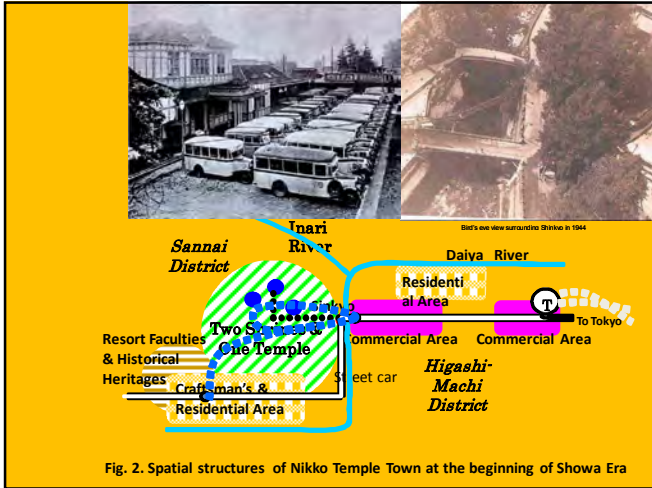


Fig. 1. Formulation of Nikko Temple Town in Edo Era



政策：山内の歩行環境（歴道）
 駅広の改良
 交通社会実験
 （山内の交通規制、東町等の駐車場整備、世界遺産バス）
 参道（国道）の改良と街並み形成等

資源：門前町の空間構造（を生かした観光利用）

効果：参道の人通りの増加（道半ば）

当面の課題：国道の改良と鉢石・神橋

事例3 中宮祠地区活性化事業

至イオン坂下り
 男体山
 中禅寺湖
 至湯元

整備前

整備後

政策

- ① 駐車場整備
- ② 道路整備+(交差点改良)
- ③ 湖畔園地・棧橋整備

資源：湖岸（前庭）の環境
 効果：湖岸での滞在・時間増
 課題：地元の合意形成

湖畔駐車場 ①
 山側道路
 湖畔園地
 湖側道路 ③
 湖側第一駐車場
 湖側合棧橋





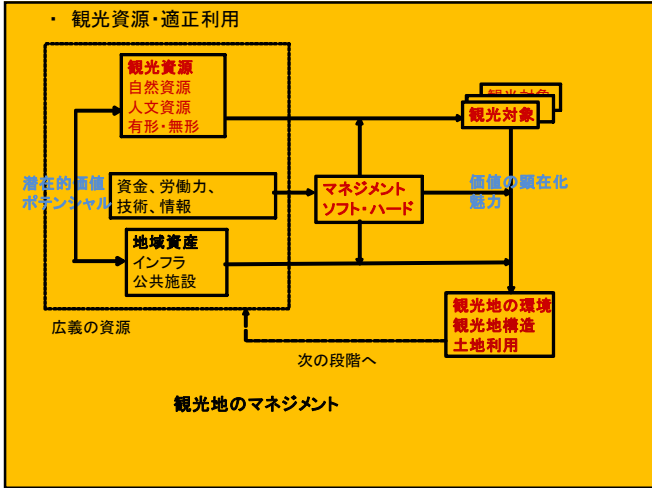
2. 観光資源の適正利用

- ・観光資源・適正利用
- ・観光資源とその価値; ポテンシャルとしての価値
- ・観光資源の容量
- ・観光資源の不可逆性
- ・機会費用
- ・地域資源の観光的利用; 複合利用、重ね合わせの利用
- ・公共財 & 市場財としての観光資源の活用
- ・奥日光の適正利用

適正利用; 観光政策の主要な目標

Effective use; 観光資源の有効活用
(資源の希少性の尊重)

Sustainable Use; 観光資源の継続的活用
(資源の存立、時間的安定性の持続)



観光資源の特性

I) 資源のポテンシャル・価値

資源価値:
 直接利用価値/間接利用価値/オプション価値 / 存在価値
 資源のポテンシャル; 色々な使い方がる。
 位置のポテンシャル/資質のポテンシャル

II) 資源の容量

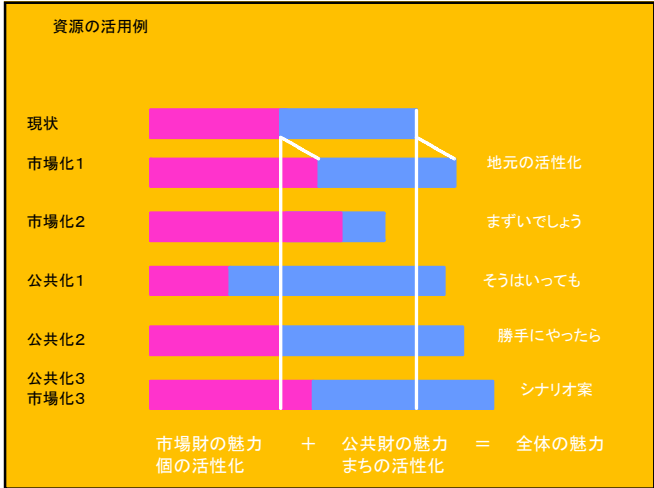
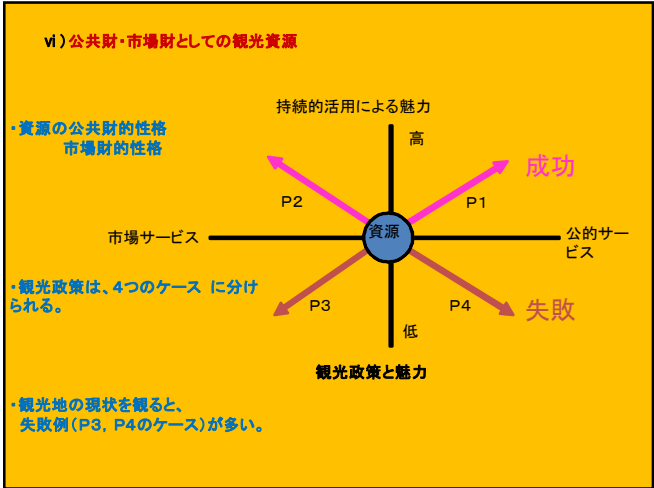
・容量論 (carrying Capacity); 持続性のチェック
 資源の存立 (生態的容量)
 観光・レク活動の存立 (機能的容量・心理的容量)
 コミュニティの存立 (コミュニティの容量)

III) 資源の不可逆性

不可逆性; 一度変化すると元に戻すことが困難な場合が多い。

iv) 地域資源の観光的利用
 多くの場合
 複合利用・重ね合わせ(本来用途とは異なる付随的用途)
 共同利用(地元の人々のためのもを借用・スピルオーバー)

v) 機会費用
 A、B、Cの3つの使い方あり
 A_m, B_m, C_m : 環境の魅力(どのように評価、計測するか?)
 Aの選択の意味; $A_m - B_m, A_m - C_m > 0$
 機会費用; Aの場合の機会費用; B_m, C_m

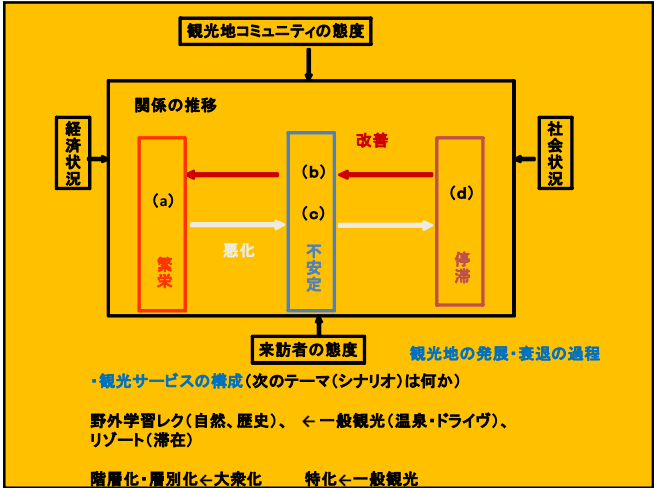


奥日光の自然資源の適正利用

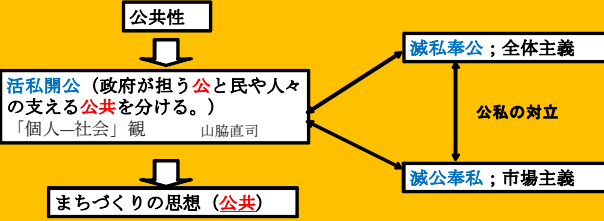
- ・隔離された空間、きめの細かい空間を生かす。(下界とは異なる別の世界、歩いて接する)
- ・アクセスの克服(容量、所要時間)
 実績からは最大約4万人/日(車で1万台)
- ・空間の管理の統合
 中禅寺湖は河川(ダム)
 周辺の土地所有は林野等
 土地利用規制は環境省
 交通管理は?
 自治体の所掌事務
- 観光地コミュニティ(社寺、地域住民、生業)

3. 観光サービス(奥日光が提供してきたサービス)

- ・奥日光の変遷
 山岳宗教、近代避暑別荘地、国立公園、戦時下、戦後の混乱と駐留軍、マスツーリズム・モータリゼーション(~S48)、環境問題の時代、その後(歩く・野外レクがテーマか?)
- ・リゾート(避暑別荘地);ある時期、ある階層の人々が、一定の場所に集まり、交流(地元との関係を含め)
 戦前 上流階級(外交官等) 戦後(企業の保養) バブル(不動産)
- ・リゾート(避暑別荘地)から大衆化;階層化→大衆化
 文化財として公共が管理 歴史的遺産として見学だけだろうか
 静けさを楽しむ、時間・季節の変化を楽しむ環境



4. 成熟社会の観光地マネジメント



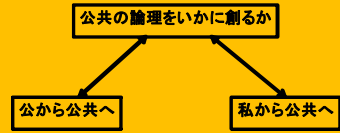
公共性も個人に立脚⇒合意形成とリーダーシップ

(市場vs公共性)さらに(公vs公共)の関係

公共性の相対性

(空間的広がり=グローバル、時間的広がり=歴史観)

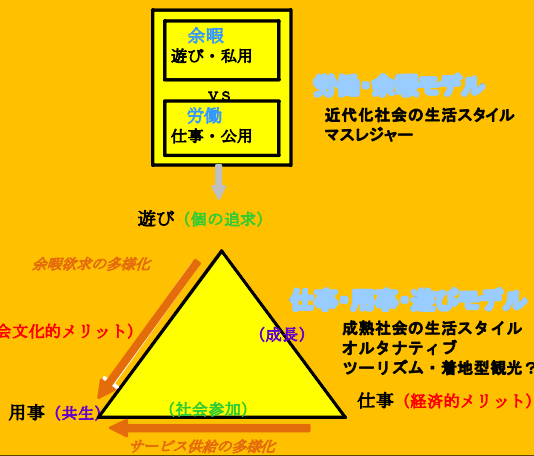
・マネジメントの場(公共を議論する場)



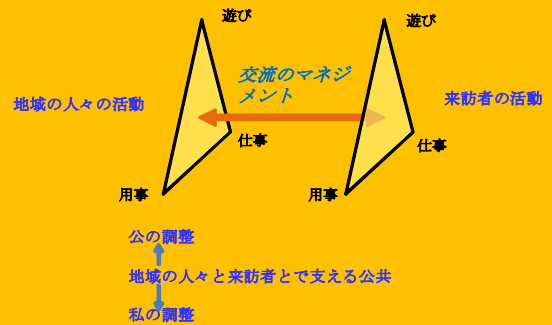
まちづくりの場をいかに設定するか (公共空間)

まちづくりの場での議論の最大の課題
まちづくりで色々な試み・啓蒙と学習

清水 次郎長
お上の論理に対し、俠客の論理
(強きをくじき、よわきを助ける)
清水港の近代化
海運業の起業



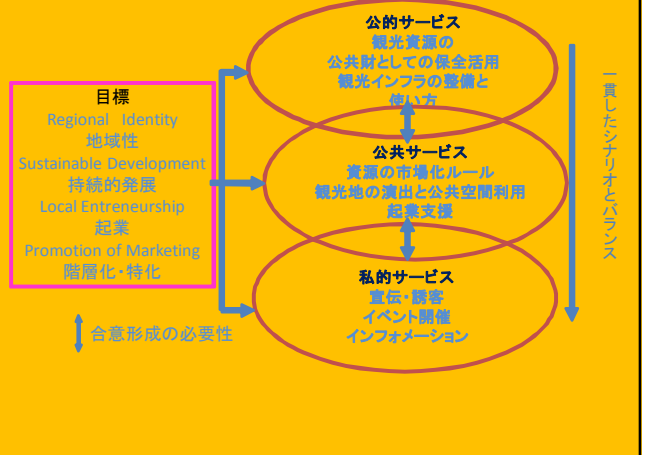
・来訪者・地元の人々の交流から生まれる仕組みとしての観光地マネジメント

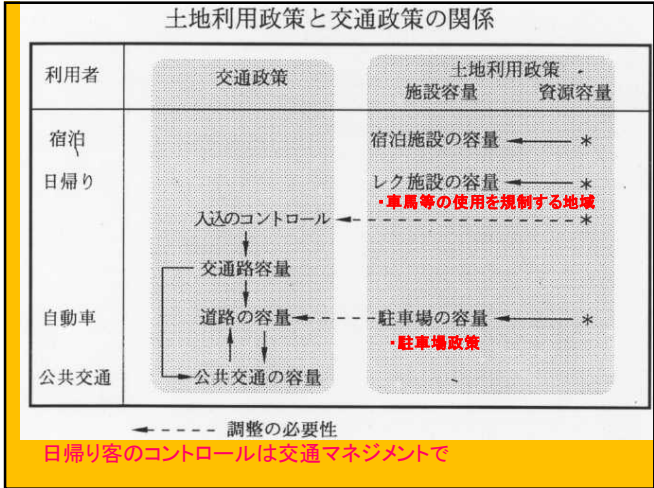
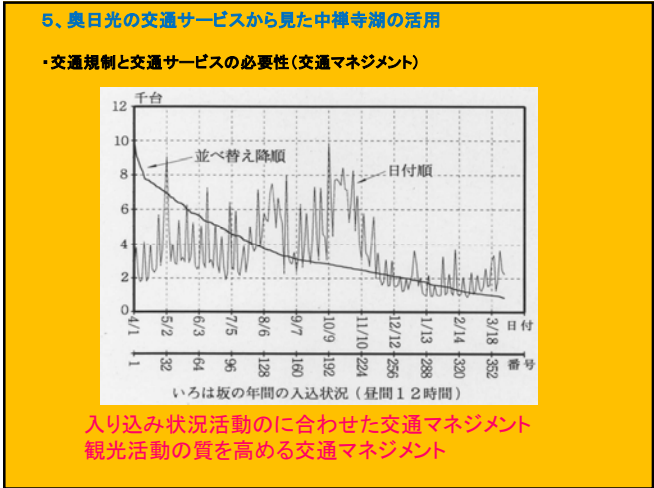
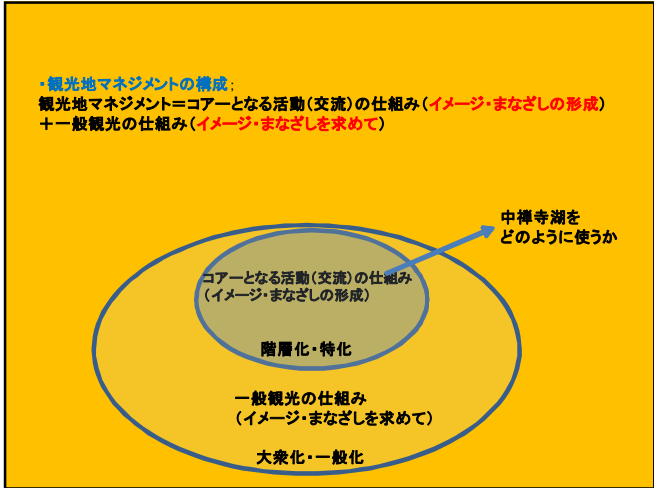


イベントにおける来訪者と地域の人々



・観光地マネジメントの構成





自然地域における交通対策のタイプ分類とその連続性

	自動車交通に着目した政策	他の交通手段も含めた政策
交通手段選択の自由	I 既存ストック活用型 (短期)	III 交通手段誘導型 (中期)
交通手段の規制 入込規制	II 交通規制型	IV 総合政策型 (長期)

日光の場合は、I、III、IV

